



令和8年(2026年)5月1日  
豊中市立桜井谷小学校  
学校だより No.2  
校長 渡部 潤也

今年度の研究テーマは  
「ふやそう 言葉のスキンシップ」



本校では重点目標として「チャレンジ」と「つながり」を掲げています。子どもたちが新しいことに一歩踏み出す勇気を持ち、あきらめずに挑戦し続ける姿勢を周囲の友だちや大人が温かく支える学校でありたいと考えています。

そのための土台となるのが、今年度の研究テーマである「ふやそう 言葉のスキンシップ」です。学力保障、人権教育、情報教育の観点で“言葉のスキンシップ”をテーマにした研究を進めていきたいと思えます。

“言葉のスキンシップ”とは、心のこもったあいさつや励まし、丁寧な語りかけ、感謝の言葉など、温かい言葉を通じて相手との心理的な距離を縮め、絆を深めるコミュニケーションのことです。授業中においては、子どもが発言したり、考えを示したりした時、「その視点いいね」「よく気づいたね」「その考え方、クラスに広げたいな」といった言葉を返すことで、学びへの自信と意欲が育ちます。さらに「〇〇さんの意見を聞いてどう思った?」「いいところを見つけて伝えてみよう」といった言葉が、互いを尊重し合う関係づくりにつながります。

子どもたちは、安心できる言葉を受け取ることで自己肯定感が高まり、「やってみよう」という気持ちが育ちます。また、自分から相手に言葉を届ける経験は、友だちとのつながりを深め、互いを認め合う関係づくりにつながります。

挑戦には不安がつきものですが、周囲からの「大丈夫」「いっしょにやろう」という言葉が背中を押してくれます。つながりは自然に生まれるものではなく、日々の小さな言葉の積み重ねによって育つものです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

ご家庭でもぜひ“言葉のスキンシップ”を大事にしていきたいと思えます。

例えば

- ・ 「おはよう」「いってらっしゃい」の毎日のあいさつ
- ・ 「ありがとう」「助かったよ」と感謝を伝える言葉

- ・ 「がんばってるね」「見てたよ」と努力を認める言葉
- ・ 「どうしたの」「話してくれてうれしいよ」と気持ちを受け止める言葉

こうした短い言葉でも、子どもにとっては大きな安心につながります。家庭での“言葉のスキンシップ”が増えると、子どもは「自分は大切にされている」と感じ、さらに自己肯定感が高まります。その土台があるからこそ、学校でのチャレンジに前向きになり、友だちとのつながりも豊かになります。また、家庭であたたかい言葉を受けた子どもは、友だちにも優しい言葉をかけるようになります。

忙しい毎日の中で、長い会話をするのは難しいことかもしれませんが、短いひと言でも十分に心は伝わります。ぜひご家庭でも、意識して“言葉のスキンシップ”を増やしてみてください。子どもたちのチャレンジする力と、人とつながる力を、学校と家庭で一緒に育てていければと思います。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

1年生も元気に登校しています！



1年生も106人、入学してから毎日、元気いっぱいに学校生活を送っています。朝のあいさつや教室での返事にも、少しずつ小学生らしさを感じられるようになってきました。

4月16日には、早くも給食が始まりました。初めての給食に少し緊張しながらも、「おいしい！」「全部食べたよ」とうれしそうな声が教室いっぱいに広がりました。先生や友だちと一緒に食べる時間を通して、学校生活の楽しさを感じている様子です。



4月21日には、野畑南公園へ遠足に出かけました。広い公園で春の自然にふれながら、友だちと一緒に遊んだり、お弁当を食べたりして、笑顔あふれる一日となりました。集団での約束を守って行動する姿にも、成長の一步が見られました。

4月30日には、1年生を迎える会が行われました。クイズあり、歌ありの楽しい時間となり、全校のお兄さん・お姉さんに温かく迎えられ、学校の一員としての仲間入りを実感する大切な時間となりました。これからも、一日一日を大切にしながら、楽しく学校生活を送ってほしいと思います。

